

## メッセージアウトライン

### ヤコブの手紙 5:1~6「富める者への警告」

[1]「聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲惨を思って泣き叫びなさい」

誤解してはならないことであるが、聖書のどこにも富める者がその富のゆえに責められているところはない。しかし、富める者は彼ら特有の誘惑に陥りやすいのでここで特別に警告されているのである。それは富や財産に頼るという誤った安心感と権力への貪欲な執着である。

ヤコブはここで「聞きなさい」と言って特別な注意を促す。この「金持ちたち」とはクリスチャンも含まれるが、主な対象は神も救い主イエス・キリストも信じていないこの世の金持ちのことであろう。この警告の目的は富を重視して道を誤ってしまわないためにある。

富を過信し、それに安住する者に下る報いは悲惨である。それゆえ泣き叫びなさいと金持ちたちに呼びかけられている。これは罪の悔い改めのための泣き叫びではなく、世の終わりのさばきのための泣き叫びである。

[2-3]「あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびがあなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました」

「富」とは人間の持つあらゆる種類の財産を指すが、ここでは特に穀物などの蓄えることのできる食料であったと考えられる。→ルカ 12:15~21 また着物も当時は大量生産できず、大事な財産であった。このようにして飽くことなく蓄えた富は、なんと腐り始めるのである。金銀にさびが来るというのは、使わないうで貯め込んだことにより変色することの強調と考えられる。

そしてそのさびて変色した状態が金持ちたちを責める証言となっている。これは富を過信し、富にのみより頼み神を否定して生きているその生き方が責められているのであり、それはさびが鉄をさびつかせて役に立たないものとしてしまうのと同じように、また火がすべてのものを焼き尽くしてしまうのと同じように金や財産を人生の抛り所、目的として生きる者には厳しい結末が臨むのである。「終わりの日」とは神の最後の審判の日のこと。→黙示録 20:11~15

やがて崩れ去るこの世界で自分のためにいくら財産をたくわえてもそれが何になるであろうか。

私たちの宝は天に積まなければならない。→マタイ 6:19~21

[4]「見なさい。あなたがたの畑の刈入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています」

金持ちたちの貪欲はここでは労働者への未払い賃金という形をとってあらわれている。

当時は労働者の権利が今のように保証されておらず、農業でいえば雇用主が大きな権利を持ち労働者は不当におとしめられていた。そのような中で貧しい労

働者が一生懸命に畑の刈入れをして働いたのに、地主が彼らへの賃金を惜しんで支払いを渋っているならば、彼らは飢えてしまうこととなる。→申命記 24:14~15

金持ちたちの貪欲ゆえの賃金の未払いというようなことがあれば、労働者たちのつぶやき、嘆き、怒りの叫び声は正しく万軍の主の耳に届くのである。「万軍の主」とは人間の作りあげた偶像神ではなく、天地万物を創造され、すべての権威、権力を持っておられ、人を生かすことも滅ぼすこともできる真の神のこと。このような貪欲な者たちに対する主のさばきは間違いなく行われることとなる。

[5]「あなたがたは、地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました」

ここでは金持ちたちのぜいたくと快樂が指摘されている。ぜいたくに暮らすことは人間の魂を墮落させ、無気力にさせるものであり、快樂にふけることは淫らで好色で勝手きままな生き方であり、彼らは自分の欲望を満足させるために自分の財産を使い、貧しい者、苦しんでいる者に対する一切の責任を忘れてしまっている。しかしこういう生き方をするものは誰でもその滅びという結末を刈り取ることになる。利己主義は常に魂を死へ導く。

[6]「あなたがたは、正しい人を罪に定めて、殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません」

「正しい人」とはこの場合、正しく働いたのに賃金をもらえなかった貧しい人々やそれに類する人々のことであろう。彼らが法廷に訴えたとしても金持ちたちはその金をもって裁判官をも抱き込み、貧しい人々を不当に圧迫し、罪に定め、社会的に何の手立ても打てないようにしてしまうのである。これは殺すことと同じことである。彼らはもはや失望と嘆きのために生きる力さえも失い、抵抗することもしないのである。

しかし、かえってそのために金持ちたちの罪は明らかになり、正しい者たちの叫びは正しく神のもとへ届いているのである。

私たちは金持ちではないが、この世の富を過信することなく、またその上に安住することなく、必要なものは神が与えてくださるという正しい信仰を持って歩んでいかなければならない。

→マタイ 6:24~34

またこの世の富める人々が正しく神に立ち返り、その富を神のために有効に仕える者となれるように祈りに励まなければならない。